

# 住民協ひろば

## ・・・優先席に座ってみると・・・

あなたは電車の優先席に何歳から座り始めましたか？

昭和21年生まれの子、足腰に不具合はなく1時間くらい立っていられます。ですから電車の優先席は私の席ではないとつい2年くらい前までは選択肢にはありませんでした。ところがある日「たっちゃん、あなたが普通の席に座ると若い人が座れなくなるから優先席に座った方がいいのよ」と久木のきよちゃんに言われて以来、以後優先席に優先して座るようになりました。

昨年の今頃乗った横須賀線が逗子駅を出発すると間もなく（後ろの車両はまだホームにわずかにかかるくらい）車両の不具合が見つかりまして点検いたしますのでしばらく停車いたします。とアナウンスが流れました。その時の優先席に乗り合わせたメンバーは私の隣に同い年位のご婦人、向かいの席に20歳女性さんと私くらいのご婦人2名様。こちらはお連れ様。20歳女性さんは足を組んでスマホを持った手を組んだひざに乗せていじっている・・・という若者スタイル。アナウンスがなっても動じず同じスタイルをくずさない。二人連れのご婦人は顔を見合わせ、〇〇さんに連絡取らなきゃ・・・とワサワサ、その内の一人がどうしようトイレに行きたくなっちゃった、と申しました。あらどうしよう・・・とお友だち。「隣がグリーン車ですから、トイレがありますよ。行ってらしたら安心よ」とこれは通路をへだてた赤の他人の私の口だし。あらそうですか、よかった！行ってくるわ、と私に言って立ち上がった。私の隣のご婦人は大船に行くらしい。へんなところで止まっちゃいましたねえ、ちょっとバックしたら降りられるのに、大船まで別の路線ありますか？あー横須賀線だけですかあ、仕方ないわね。その間20歳女性さんはスマホいじりがおさまらず。戻ってきたトイレ婦人はあーよかったとしばらく安心。と軽く会釈して座る。

それから何分経過したか、やおら車内放送が流れた「車両をバックいたします。ホームに完全につきましたらドアを開けます」ゆっくりゆっくり車両はホームへ、ドアが開いたとたん20歳女性さんはバサッと立ち上がった！「あ、お嬢さん！傘よ、忘れないで・・・忘れると思ったのよね、」彼女が座るとき手すりにかけてたビニール傘を私はにらんでいた！絶対わすれるに違いないと！やっぱりわすれた(笑)「あ」といって20歳女性さんはつかんで立ち去った。ワハハハ！超ド級のおぼはん優先席物語 しかしこの日以後は面白い現場には遭遇しておりません。

校区住民協副会長 龍村 敦子  
(山の根自治会会長)

## 令和5年2月度役員会

開催日時と場所：2023年2月4日(土) 13時  
議題

30分～15時40分、久木会館多目的B室

出席者：20名(内役員12名)

### (1) 事務局からの報告事項

#### ①住民協連絡会(2/3(金)開催)報告

市長より、取り組むべき重点項目として、ア)高齢者の公共交通の整備、イ)空き家問題、ウ)コミュ

ニティスクール(学校の地域への開放)の3点につき説明があったことが報告された。

ア)については、民間の交通機関を含めて施策を進

めるべき。イ)については都市整備課に1人担当を増やすとのことであるが、ハイランド自治会が提出した空き家リストについて今だに何のフォローがないのは改善すべき。ウ)については学校の運営に地域の人がかかわるといっても、教職員側は文科省の指導に従うのに手一杯なのではないかなど具申した事が報告された。

## ②久木小学校校舎改装工事について

1月31日に市民協働課との会議が開催され、久木小学校校舎改装工事に関連し、新たに体育館棟を建設し、2階を体育館にすると共に、1

階に「ことばの教室」「学童保育施設」「久木会館」を移転する旨説明があったことが報告された。

本件に関しては、2/10・16:00～説明会、また3/1の返子広報に委員募集が掲示され、その後ワークショップを、4/15、5/13、5/27、6/10に開催し、市民からの意見聴取をして、7月には基本計画を策定する予定であるとの報告があった。

事務局より、可能な限りワークショップに出席するよう要請された。

## 審議事項

### ①返子市総合計画の変更について

藤江会員(返子市総合計画審議会委員)より、首題の件につきプロジェクターを用いて、説明があった。

協議の中で、「具体論に欠けている」、「市税だけで実現するのは困難、国の補助金などをいかに活用していくかが課題である」「人口推計を最新のリアルな数字にして計画を見直すべき」など

の意見があった。

今回改正された「総合計画」のコピーは事務局に1部提供されるので、内容確認したい方は申し出るよう要請された。

### ②特別号・ひろば第6号座談会を踏まえて「ワークショップと支え合いの学習会」について

これからの地域づくりについて、特別号の座談会に出席した若い人達とシニア達とのコミュニケーションを図り、意見交換、協議する場を社協のワークショップとして3/18(土)に開催する旨報告された。

### ③みんなのカフェについて

1/26に三回目の「みんなのカフェ」を開催した。前2回はランチ提供もしたが、コロナ禍で仕事を始めた人が増え、調理メンバー不足の為、今回は13時～16時までのカフェとなった。

小学校の保護者30名程が集まり、今の子育て世帯が何を求めているのか、住民協と関わりなどにつき意見交換した。

今後「みんなのカフェ」をどのように運営していくのかは課題であるとの見解が示され、事務局か

らも、「子供部会」の在り方も課題であるので、一緒に検討したいとの申し出があった。

また会計より、3回実施された「みんなのカフェ」の会計報告があった。

### ④防災安全課/久木小学区地区防災拠点公式決定の伴う予備打ち合わせについて

情報の伝達、情報ネットワーク構築などにつき市と調整してゆく必要があるが、まずは住民側の意見集約が必要なことから、2/5に減災部会、避難所準備委員会、各自治会・自主防災組織の主要メンバーを集めて、意見調整が行われることが報告された。

### ⑤会計報告

会計より、資料④を基に、2022年度決算概要と2023年度予算概要につき説明があった。

### ⑥その他

#### a) 総会日程について

事務局より、毎年4月20前後に総会を開催してきたが、久木会館の会計監査時期の件で無理があるので、この際5月の連休明け5/6まで伸ばす案が提起され、役員会で了承された。

#### b) パブリックビューイングについて

事務局より、コロナ規制も緩和の方向に向かっているため、コロナ禍でしばらく見送ってきたパブリックビューイングを、来年度に向けて実施する方向で準備したいとの意思が示された。

#### c) 会計アシストの件

会計の鈴木氏より、24年度の会計交代を前提として、業務周知の為、23年度より芹沢氏を会計のアシスタントとして役員登録したいとの申し出があり、役員会にて了承された。

## 《寄稿》

### 原田正樹 日本福祉大学教授 基調講演 「福祉の種まき実践～インクルージョン と共生の文化づくりに向けて～」 聴講記録

#### 校区住民協 理事 田倉 由男

逗子市社会福祉協議会、主催による第19回福祉教育セミナーが1月7日（土）開催されました。セミナーで日本福祉大学 教授 原田正樹による基調講演がありました。その要約と感想です。

#### ♣ふくしの意味するところ

ふだんのくらしのしあわせです。

#### ♣インクルージョンとダイバーシティをごちゃ

まぜにする。

その結果、共に生きる、だれ一人取り残されないことが、あたりまえになる地域社会を作る。

※ノーマライゼーションの価値

・「仲間はずれ」にしないということ

・「存在」するということの意味

・生命の優劣はないということ

#### インクルージョン

「すべてを包括する。包み込む」ことです。障がいの有無や性別、性的志向、人種など私たちに人間であっても様々な違いがあります。このような違いを認めあい、すべての人がお互いの人権と尊厳を大事にしていける社会をインクルーシブ社会と言います。

#### ダイバーシティ

直訳で「多様性」を意味する言葉です。人種・年齢・性別・能力・価値観などさまざまな違いを持った人々が組織や集団において共存している状態を示しています。

#### ♣地域共生社会の理念

人々が、地域、暮らし、生きがいを共に創り「地域共生社会」を実現する。そのためには役割が大切である。地域が「相互に支えあう」役割を作ることが重要である。

#### ♣日本の課題として指摘されたこと

「分けたくて、手厚く」は世界の非常識。分けるのではなく、まずは一緒であること。日本社会は「分離」と「同化」慣れ親しんできた社会。真に多様性や社会的包摂を認める社会に変革できるか。

#### 〈感想〉

80年代の後半から90年代にかけて、いろいろな分野でインクルーシブとダイバーシティーがクローズアップされ、正直、なんとなくうんと思っていた。今回のセミナーで「インクルーシブとダイバーシティーをごちゃまぜにする。」という名言が飛び込んできた。「ごちゃまぜ」がいい。「ごちゃまぜ」にすれば、分けるも一緒もどこかに、吹っ飛んでしまい、個々の違いを受け入れ、認め合うことになる。「ごちゃまぜ」は、今回の基調講演で、一番、印象に残ったフレーズである。

## 《レポート》 久木小学校校舎長寿命化等の基本設計（案）

同校の校舎は建設から大凡50年が経ち、老朽化が進んだため、校舎の長寿命化のための大規模な改修工事を行うことになり、2月10日、改修の基本設計（案）の説明会が開かれました。

配布された資料に基づいて概要をお伝えします。（不明な点は市教育委員会教育総務課へ問い合わせ）

1. 工事期間と内容：工事は授業や業務に支障が生じないように、3期に分けて行われます。

令和6年7月までで設計完了、工事開始令和6年8月～完成令和11年11月の長期にわたります。

- ① 第1期：令和6年8月～令和7年12月：体育館棟（地域活動センターを含む）他の新設  
令和8年1月～令和8年6月：体育館棟の解体

- ② 第2期：令和8年8月～令和8年12月：仮設校舎建設（令和11年8～9月解体）  
令和8年9月～令和9年9月：給食室の新設  
令和9年1月～令和9年12月：校舎棟（北側建屋、教室）の改修
- ③ 第3期：令和10年4月～令和11年7月：管理棟（西側建屋、職員室等）の改修  
令和11年8月～令和11年11月：グラウンド整備等諸整備

2. 工事完了後の姿は次の図のようになります。



### 3. 図の説明

- ① 右上図面で、給食室（東端）、体育館棟・多目的棟（南西端）が新設。
- ② 下3図面は、体育館棟・多目的棟の拡大図で左から1・2・3階部分を示す。  
1階部分は間に通路があり2個に分離。2・3階部分は一体となり、渡り廊下で管理棟とつながる。
- ③ 体育館棟の1階部分は、東側に学童保育（学童クラブ）、西側に地域活動センターが入居。多目的棟2階にはフレスクが入居。

### 4. 地域活動センターの設計について

市・市民協働課がまとめ役となり、住民参加のワークショップを4～6月に開催して7月に作り上げます。詳細は広報すし・3月号に掲載されます。

鈴木 為之（山の根在住）

（編集者よりお断り）紙面の都合で、連載「カーボンニュートラル（続）」、久木朝市ひろばは、次号送りとなります。

### 編集後記

「一月住める二月逃げる三月去る」（1月いぬる/2月にげる/3月さる）

これは「1月から3月までの時期は時間の流れが早く毎日があっという間に過ぎ去ると喩えた言葉で「光陰矢の如し」の期間限定版です。1月～3月は行事が多く時間が過ぎてしまう、現代風に言えば、1月は行事が多く2月は日数が少なく3月は期末でやるべきことが多く時間の経過が早く感じる事を云い表している。今年も間もなく1年の1/4が終わってしまうのか。我が久木住民協は今期の締め、来期の準備を着実に実施しなければならない。まずは各事業部で今季実施予定の行事をこなし、特に3月18日に予定している「住民協ひろば特別号6号」で取り上げた若手活動家の座談会をベースに「地域福祉活動」のワークショップを有意義なものに、そして来期早々の総会の準備をしなければならない。

事務局長 石井 達郎